



赤松館主屋正面

町並みについて

◆肥後と薩摩を結ぶ薩摩街道の難所として名高い三太郎峠の1つ、赤松峠より名前を付けたといわれる赤松館が旧薩摩街道近くに建ち、明治期の面影を残す町並みを形成しています。

◆同地区は江戸期には田浦手永^{※1}の中心地であり、中世以来の土豪桧前氏(田浦氏)が惣庄屋を世襲した手永会所^{※2}が少し離れた所がありました。現在も小・中学校や郵便局などの公共施設が集積しています。

※1 手永…江戸期の肥後藩の地方行政単位で、郡の下でいくつかの村を束ねたもの。郡と村の中間にあたります。

※2 会所…手永の政治、経済等を司る機能を持つ役所



赤松館前の通り

町並みの中心(核)となる伝統的建造物

🏠 藤崎家住宅(赤松館)

国登録有形文化財

◆江戸後期から芦北地方の大地主として栄えた藤崎家の邸宅として、明治26年(1893)に5代目当主・藤崎彌一郎が建造に着手しましたが、日清戦争勃発により、未完成のまま工事を終えています。

◆芦北地方の迎賓館としたいとの思いで建てられた建物は、銘木を用いた巧緻な意匠であり、高い水準の大工技術を有する近代和風建築として高い価値を有しています。主屋をはじめ米蔵、表門など9件が、国登録有形文化財に登録されています。

日本の料理研究家の草分け的存在の江上トミ氏の生家としても有名な赤松館は、NPO法人赤松館保存会が維持管理を行い一般公開されています。現在の当主の意向で内部に展示してある明治期の時刻表など、貴重な資料を実際に手に取ることができ、歴史を体感できる建造物となっています。(展示物は変更になる場合があります)

